

令和 7 年度（2025 年度）

教職課程

自己点検・評価報告書

四天王寺大学短期大学部

令和 8 年 6 月

四天王寺大学短期大学部 教職課程認定学部・学科（免許校種・教科）一覧

- ・短期大学部保育科（幼稚園教諭 2 種免許状）

大学としての全体評価

四天王寺大学短期大学部は、聖徳太子が推古元年（西暦 593 年）に四天王寺を創建し、敬田院を設立された精神「帰依渴仰 断悪修善 速証無上 大菩提処」を建学の精神とし、聖徳太子が制定された十七条憲法に準拠して学園訓を制定している。本学創設以来、十七条憲法の第一条「和を以て貴しとなす」に象徴される「和の精神」により道德観・倫理観を涵養し、自己を磨く教育を実践してきた。利他の心を持ち、磨き上げた自己の知識・技能をもって人々に寄り添える人材を育成することは本学の使命である。

本学の教員養成の理念は、この「建学の精神」を踏まえて仏教精神を基盤においた幼稚園教諭を養成することにある。聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む幼児教育の専門職としての基礎的実践力を身につけた人材の養成を目標としている。グローバルな視点がますます必要となってきた現代社会における幼児教育者としての役割を自覚し、仏教保育の理念を理解したうえで、子どもや保育に関する基礎的・基本的な知識の理解と、適切な思考・判断・技術に基づいた保育実践力を身につけることを目指している。

本学では、保育科に幼稚園教諭養成課程を設置している。上記の幼稚園教諭の育成に向けて保育科、キャリア委員会、キャリアセンター等の教職員間で連携しながら、幼稚園教諭養成カリキュラムの編成、実施とその評価、改善を通して本学の幼稚園教諭養成教育の質のさらなる向上を図っている。

四天王寺大学短期大学部

学長 須原 祥二

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	13
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	14

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

- (1) 大学名：四天王寺大学短期大学部
 (2) 学科名：保育科
 (3) 所在地：大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1
 (4) 教職課程の履修者数及び教員数

① 教職課程の履修者数 令和7年度（令和8年3月1日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
-	保育	-	幼2種	48	37	-	-	85

※1年次生は希望免許登録者数、2年次生は一括申請者数

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	4	2	3	0	0
備考：					

(5) 卒業者の現況

令和6年度卒業生（令和7年5月1日現在）

学部	学科	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
短期 大学部	保育	28	1	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-

2 特色

四天王寺大学短期大学部保育科は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、開学以来、社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この「建学の精神」に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。これに基づいて、本学は、仏教精神を基本とした幼稚園教諭の養成を行っている。

教育課程の編成、教育内容については、1・2年次生合同で学ぶ「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」を中心にカリキュラムを構成し、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観を基礎とした専門的な実践力を身につける

ことを目指している。そして、系統的に分類した 6 つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置している。また、幼稚園教諭 2 種免許状および保育士資格取得を基本的な考えとしていることもあり、個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」の実施をし、キーボードの貸し出しを行いつつ、入学後も個人指導を行い、現場で要求されるピアノ演奏能力を授けている。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を踏まえて教職課程教育の目的・目標を設定し、「教員養成の目標及びめざす教員像」や「履修系統図」、「保育科専門科目 セメスター別学習テーマ」を公式ホームページや履修要覧、ガイダンス等で学生及び教職員に周知している。

また、「履修カルテ」を作成する中で幼稚園教諭を志望する理由・動機を明確にし、履修した教職関連科目や教育実習での学びを振り返ることで学修成果を明確にするとともに、今後どのような学修が必要かを確認している。そして、「保育・教職実践演習（幼稚園）」にて教員として必要な資質能力が形成されたかの確認を行う際に活用している。

〔優れた取組〕

「保育・教職実践演習（幼稚園）」において専任教員全員で協働実施することや学科会議などを通じて関係教員が教員養成の目標やめざすべき教員像を共有し、適切に計画された教育課程で計画的に教職課程教育を実施している。

教職課程の運営においては、日常的に全学的な取り組みを展開するために、重要事項を審議する最高機関である教育研究評議会、教授会をはじめ、教職課程の運営と質向上を目的とする教員養成カリキュラム委員会（委員長：教務部長）や教務委員会、教員採用試験にかかわる学生相談や対策講座を遂行する教職支援委員会（委員長：教職教育推進センター長）など、教職員が協働する全学的な組織体制を充実させることで、教職課程の質の向上を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

「卒業認定・学位授与の方針」に照らして学修成果を評価するとともに、改善点や課題を関係教員で共有し、より充実した教育課程の実施を図る。

「履修カルテ」においては、令和 7 年 11 月の学生ポータルサイトの変更に伴い、入力場所・方法などの問い合わせが一時的に増加した。特に学生にとって使いやすいものとなるようより良いマニュアルの作成を行うとともに、あらためて「履修カルテ」が持つ意味を伝えることも含めて、丁寧かつきめ細かな指導を行っていく。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－1－1：
四天王寺大学公式ホームページ（教育研究上の目的・3つのポリシー等）
【<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>】
- ・資料 1－1－2：
令和 7 年度履修要覧
【<https://www.shitennoji.ac.jp/student/rishuyoran/>】
- ・資料 1－1－3：
令和 7 年度保育科学科会議議事録

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

教員養成に関わる全学的な委員会組織として、教職課程の運営と質向上を主な目的とする教員養成カリキュラム委員会（委員長：教務部長）と、学生が教育職に就くための活動支援を主な目的とする教職支援委員会（委員長：教職教育推進センター長）を設置している。教員養成カリキュラム委員会は、教職課程を設置する学部・学科の教員、教職に関する科目の担当教員および教務課長で構成されており、教職科目の編成や適切な実施に向け、事務職員と学部・学科の教職課程担当教員で役割分担をする協働的な体制を構築している。

教職支援委員会は、教職課程を設置する学部・学科の教員、教職教育推進セ

ンター長で構成されており、教員採用試験にかかわる学生相談や対策講座を遂行するため、取組の立案・報告、今ある課題などから自己点検・評価を行うとともに、課題対応についての検討を行っている。

事務局組織として、教務部では教員免許状取得に向けた履修相談や一括申請業務などを行い、教職教育推進センターでは実習業務やガイダンスの開催を行い、キャリアセンターでは教員採用試験に関する支援や、求人情報の提供などを行っている。学生への情報提供、支援について円滑かつ多面的に行われるよう教職支援委員会を中心に、各部署職員と保育科教員とが密に連携を図れる体制を取っている。

〔優れた取組〕

F D活動の一環として実施している授業相互参観や授業評価アンケート（年2回・各学期末に実施）の結果を受け、教員が授業改善を検討・提出し、次年度の授業に反映させることで、教職課程における授業の質向上に努めている。

また、教育現場での実務経験の豊富な専任教員が中心となり、複数担任制をとることで、学生の教育実践力の向上、教育実習等の運営、教職課程への支援を組織的に実施している。

〔改善の方向性・課題〕

F D（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やS D（教職員の能力開発）の取り組みを推進し、学生の質や社会の動向に応じた教職課程の改善に努める。

教職教育推進センターに保育科教員が所属していないことから教職支援委員が多く役割を担い、その負担が大きいことが課題としてあるが、令和8年度より新たに保育実践センターを開設することで、教員の役割分担が適正化され、よりきめ細やかで手厚い支援体制を構築することが期待できる。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 1－2－1 :
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部教員養成カリキュラム委員会規程
- ・ 資料 1－2－2 :
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部教職支援委員会規程
- ・ 資料 1－2－3 :
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 保育実践センター紹介チラシ

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2－1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学における「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を踏まえた「教員養成の目標及びめざす教員像」を公式ホームページおよび履修要覧等において学内外に向けて発信し、教職課程を設置する保育科の「入学者受入れの方針」に基づいた学生募集および選考を実施している。その中で、オープンキャンパスでの学科説明およびミニ授業・在学生との交流や、高校生向けの職業別ガイダンスに参加する中での説明を通じて、求める人物の確保を図り、入学者のおおよそ全員が教職課程の履修を希望している。

〔優れた取組〕

学生募集にかかわって、入試ガイダンス等で在学生や卒業生に教職のやりがいや教職課程の興味深さを語ってもらうなどの協力のもと、本学教職課程で学ぶことがふさわしい学生の確保に努めている。

また、保育科教員より授業内外において日々個別指導を行い、とりわけ「履修カルテ」作成に取組ませることで学生自身が、“これまでの自分からこれからの自分”について向き合うことができている。

〔改善の方向性・課題〕

18 歳人口の減少に加えて短大離れが進展する中で、教職のやりがいや興味深さを大学公式ホームページや公式インスタグラム等で発信し、本学教職課程で学ぶにふさわしい学生の確保に一層努める。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 :
四天王寺大学公式ホームページ（教育研究上の目的・3つのポリシー等）
【<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>】
- ・資料 2-1-2 :
令和 7 年度履修要覧
【<https://www.shitennoji.ac.jp/student/rishuyoran/>】
- ・資料 2-1-3 :
四天王寺大学公式ホームページ（教員養成の目標及びめざす教員像）
【<https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/teacher-training/>】

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

本学はクラス担任制を採用しており、クラス担任が個別に学生と面談を実施して、学生の教職に対する意欲や適性を把握している。学科は、キャリアセンター、キャリア委員会と連携し、幼稚園教諭の実務経験を有する国家資格キャリアコンサルタントの専任職員が、学生の希望等に応じて採用試験に向けて面談・実技指導等を実施している。

〔優れた取組〕

教員採用試験対策を主な内容とした科目「保育教科演習」を開講し、主に公立園対策として各自治体の出題傾向に合わせた指導を行うことで、教職キャリア支援を実施している。私立園採用試験対策においても、実技指導、面接指導を専任教員が積極的に行い、認定こども園・幼稚園への就職を支援している。

〔改善の方向性・課題〕

18 歳人口の減少に加えて短期大学離れが進展し、多様な学生が入学する現状に対応して、キャリア支援の在り方を改善できる体制を整えるよう努める。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2 - 2 - 1 :

四天王寺大学短期大学部キャリア委員会規程

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

保育科の目的を踏まえ、保育科のカリキュラムにおいて教職課程の科目と保育士資格課程の科目の系統性を確保した上で、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。また「建学の精神」を学ぶ基礎教育科目の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の修得を必須とすることで、2年間で取得希望免許に関する専門知識だけではなく、「和の精神」に基づいた慈愛に満ちた保育者としての心構えと態度を身につけた人間性豊かな教員の育成を目指している。

教職課程における学びの軌跡とともに自身のこれからの学びに対する意欲、姿勢づくりのため、各学年終了時や、実習前・終了時など節目に「履修カルテ」作成を行なっている。振り返りから次のステップにつなげていくという内発的動機づけにより、“学びの継続”につながっている。

〔優れた取組〕

保育科のコア科目である「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」において、異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施している。この科目では、保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がチームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進している。

〔改善の方向性・課題〕

2年間で幼稚園教諭2種免許状と保育士資格の取得をめざすため、履修上限一杯の履修が必要になる場合がある。学生の負担軽減に向けてカリキュラムのスリム化の検討や、時間割編成を工夫していく必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料 3－1－1：

令和 7 年度 履修要覧

【<https://www.shitennoji.ac.jp/student/rishuyoran/>】

・資料 3－1－2：

シラバス照会

【<https://unipa.shitennoji.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>】

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

1 年次夏学期開講の「保育実践演習Ⅰ」においては、近隣の幼稚園・保育園に赴き、子どもたちと触れ合うことで、保育現場を知るきっかけとしている。また、1 年次冬学期開講「保育実践演習Ⅱ」では、グループでペープサート、人形劇などを用意して、近隣の保育現場で上演をするなど、地域の保育現場との繋がりの中で、保育の実践的指導力を育成する機会を全学生に対して設けている。

〔優れた取組〕

近隣の園児を学内に招待し、保育表現あそびを共にする機会を設け、保育者としての立場で子どもへの援助を行うことで、実践的指導力の育成に役立てている。また、プロの人形劇団を学内に招き、その上演を地域の園児と鑑賞することで、子どもの表現受容について体験的に学ぶ機会を全学生に対して設けている。

〔改善の方向性・課題〕

今後はキャンパスの開放などで、さらに地域現場との連携を深め、学生が体験的に実践指導力を身に付ける機会を設ける。令和 8 年度からの保育実践センターの開設により、地域の園児・親子との接点が増えることが期待できる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料 3－2－1：

シラバス照会

【<https://unipa.shitennoji.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>】

Ⅲ．総合評価（全体を通じた自己評価）

本学の教職課程は、聖徳太子の敬田院に由来する建学の精神に基づき、宗教的情操教育および人権教育を基盤とした人格形成を重視しながら、教員として必要な専門的知識・技能と実践的指導力を備えた人材の育成を目的として体系的に運営されている。教員養成の目標およびめざす教員像は、「卒業認定・学位授与の方針」および「教育課程編成・実施の方針」との整合のもとに設定されており、大学公式ホームページや履修要覧、ガイダンス等を通じて学生や教職員、学外に周知している。また、保育科会議、教授会、教員養成カリキュラム委員会、教職支援委員会、キャリア委員会等の会議体を通じて教職員間で共有され、教職課程教育の質向上に向けた組織的な取組を継続的に行っている。

教職課程の運営においては、保育科、教務部、教職教育推進センター、キャリアセンター等の関係部署が連携し、履修指導や各科目の授業、教育実習、学外学修活動、公・私立園の教員採用試験対策などで連携する体制を整備している。履修カルテの活用を通して学生の学修状況や成長過程を継続的に把握し、幼稚園教諭になることへの動機付けや自己省察を促す仕組みを構築している。さらに、希望自治体・園の採用試験対策として、出題傾向に合わせた指導や実技指導、面接指導など教職へのキャリア形成を支援する取組も実施している。以上のことにより、本学の幼稚園教諭の教職課程教育は着実に成果を挙げていると考える。

今後の主な改善課題として2点ある。1つ目がカリキュラムのスリム化である。2年間で幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得をめざすため、現行カリキュラムでは履修上限一杯の履修が必要となっている。学生の負担軽減を行い、それにより幼稚園教諭に求められる資質能力を学生に確実に育てるために重要な課題である。2つ目として、学生が体験的に実践的指導力を身につける機会を充実させることである。令和8年度の保育実践センターの開設により、実践的学修機会をカリキュラム等にさらに盛り込むことにより、理論と実践を往還する教育を体系的に展開する。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和7年6月 教職教育推進センターおよび教務部にて打合せを行い、「令和7年度教職課程自己点検・評価報告書」の作成プロセスを確認した。

令和7年7月 教員養成カリキュラム委員会を開催し、令和7年度教職課程自己点検・評価報告書」の作成プロセス等の確認を行い、審議の結果、承認された。

令和7年12月 教職教育推進センター及び教務部より教職課程を有する各学部・学科に「令和7年度教職課程自己点検・評価報告書」の作成依頼を行い、報告書（案）の作成を開始した。

令和8年3月 各学部・学科からの報告書を教職教育推進センター及び教務部で集約・編集した後、学長へ大学としての全体評価の作成依頼を行い、報告書（案）を作成した。

その後、教員養成カリキュラム委員会にて報告書（案）を審議し、意見の反映を行ったうえで、「令和7年度自己点検・評価報告書」（案）の完成とした。

令和8年6月 全学的な審議機関である教育研究評議会において審議し、承認を得たうえで、本学ホームページにおいて公表した。